



JSQC ニュース

No.349

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JIS Q9026「日常管理の指針」が5月20日に公示
- 2-私の提言 コミュニケーション・マネジメントの勧め
- 2-研究会だより 新たな統計的品質管理技術の開発を目指して
- 3-ルポルタージュ 第387回事業所見学会ルポ/事務局からのお知らせ/行事案内
- 4-行事案内/JSQC規格頒布のお知らせ/会員データベース更新のお願い

JIS Q9026「日常管理の指針」が5月20日に公示

標準委員会 住本 守

品質管理学会が提案した「日常管理の指針」のJIS原案が、2016年3月19日に開催された日本工業標準調査会の適合性評価・管理システム規格専門員会で承認され、5月20日にJIS Q9026「日常管理の指針」として公示されました。JSQC規格が初めてJIS化されたこととなります。JIS Q9026「日常管理の指針」は、日常管理の基本的考え方、日常管理の進め方及び日常管理の組織的な推進の指針をまとめたもので、あらゆる組織に適用できる規格となっています。

「日常管理の指針」のJIS原案は、2013年5月22日に制定したJSQC-Std 32-001「日常管理の指針」をJISの規格様式に従い編集し直したものです。JIS Q9026は基本的にJSQC-Std 32-001と同じですが、推奨事項をより簡潔に示している、“総合的品質管理における日常管理の役割”や“日常管理の基本概念”などの解説を多く含む部分を付属書に移しているなどの点でJSQC-Std32-001と異なっています。

ねらい通りの製品・サービスを経済的に生み出すため、プロセスを定めそれに従って仕事をすることが一般化していますが、プロセスを定めてもそのとおり実施されないことによる問題が多発しています。日常管

理は、定めたプロセスが期待通りの効果を発揮するための基本となる活動であり、組織経営の根幹をなす活動の一つです。標準委員会は、日常管理のより多くの組織への普及を目指し、JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」の制定と同時に、同規格のJIS化に取り組んできました。JIS Q9026及びJSQC-Std 32-001の普及が進み、多くの組織で日常管理が確実に実施され、より良い品質の製品・サービスに繋がることを期待しています。

また、JIS Q9026「日常管理の指針」の制定がきっかけとなり、より多くの組織で質の高い品質活動の指針としてJSQC規格の活用が進めばと願っております。

JSQC規格は、品質管理学会が蓄積してきた知見に、企業が独自に獲得した知見を加えた現時点でのベストプラクティスを体系化した内容となっています。このため、規格制定には多くの方々のご協力をお願いしております。「日常管理の指針」の制定に関しても、JSQC規格原案作成、規格審議及びJIS化原案作成には、産業界を代表する多くの方々にご協力いただきました。厚くお礼申し上げます。

標準委員会は、品質管理の普及を目的に、品質/質に関わる事項に関

する標準化を推進し、その成果の一つとして日本品質管理学会規格JSQC-Stdを制定してきました。今般、初めてJSQC規格のJIS化を達成しましたが、引き続き標準化活動を強化してまいります。

これまでに制定したJSQC規格は、JSQC-Std 00-001「品質管理用語」、JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」、JSQC-Std 31-001「小集団改善活動の指針」、JSQC-Std 21-001「プロセス保証の指針」、JSQC-Std 89-001「公的統計調査のプロセス-指針と要求事項」、JSQC-Std 33-001「方針管理の指針」の6規格です。現在、「品質管理教育の指針」の原案作成に取り組んでいます。加えて、「新製品開発管理の指針」の原案作成を本年秋頃から開始できるよう、準備しているところです。

また、制定済みのJSQC規格のJIS化についても積極的に推進してまいります。昨年12月に制定したJSQC-Std 21-001「プロセス保証の指針」のJIS化の申請手続を終えたところです。そのほか、本年5月17日に制定したJSQC-Std 33-001「方針管理の指針」は、現行JIS Q9023「マネジメントシステムのパフォーマンス改善-方針によるマネジメントの指針」の改定規格案として、JIS化の提案を行う予定です。

● 私の提言 ●

コミュニケーション・マネジメントの勧め

駿河台大学 経済経営学部 海老根 敦子



コミュニケーションの重要性が各方面で再認識されていますが、いざその言葉の意味を問うと、解釈は人

様々なようです。そこで語源を辿ると、ラテン語で《共に持つ》という意味なので、現代語の意味は、人々の間で理解を共有すること、またはそのための情報交換と解釈できるでしょう。これを企業経営に当てはめると、企業組織の構成員の間で、企業の目的に照らして業務上必要不可欠な理解を共有すること、またはそのための情報伝達と情報処理の活動ということになります。

製造企業の場合、利潤の源泉である製品品質の創造を支えるコミュニケーションは、国内外の広かつ長時間の時空に展開する複雑な活動です。企業組織を人体に例えれば、組織のコミュニケーションは体内を循環する血流です。組織の各所に必要な情報を供給し、各構成員の共通理解の水準を所定の水準に保ちます。そのために、人体でいえば、血液循環を制御する中枢神経系が必要になります。弱った組織では、自然に放っておいても望ましいコミュニケーションは生まれません。誰かが意識的に組織のコミュニケーションをマネジメントする必要があります。

連日のように報じられる日本企業の相次ぐ誤魔化し事件は、日本の産業の危機を物語っています。筆者が解析し

た世界的ハイパフォーマンス製造企業の大規模実態調査では、対顧客コミュニケーションが日本企業だけ著しく弱い傾向が現れています。《顧客に向き合う経営》、《何でも言える風通しの良い社内風土》など、口ではいいことを言っているのに、なぜ実行できないのでしょうか。うまくいっていない企業では、具合の悪い現場の情報が阿吽の呼吸で上に上がらなくなっていきます。経営トップが過去の高度成長期に経験した輝かしい現場が、今は活力を失っていてもそれを知らされていない経営トップは、架空の延長線を思い描いています。その理想と現実の落差が誤魔化しを生むのでしょうか。多くの組織には円滑なコミュニケーションを阻む局所的な利権構造があります。ですから、コミュニケーションをマネジメントするというのは、決して生やさしいことではありません。しかし、人口1億2千万余の国家を外国人の爆買いで支えることはできません。今こそ産業再生に向けて、製造業に携わる一人一人の覚悟が問われています。

研究会
だより

テクノメトリックス研究会

新たな統計的品質管理技術の開発を目指して

主査 黒木 学 (統計数理研究所)

2015年にテクノメトリックス研究会が設立されて20年を迎えました。議事録を見る限り、一度も休会することもなく1年に4回程度開催されてきたようです。したがって、この「研究会だより」がみなさまの目に触れるころには92回の研究会が行われたころになるかと思えます。そして、順調にいけば、2018年には100回目の研究会を迎えることとなります。私が主査を引き受けるにあたって、何人かの若手研究者に参加を呼びかけました。すでに、研究会の「実働部隊」として活躍していただいている方もおり、頼もしく思っているところです。この経緯については、品質管理学会誌に掲載予定の研究会活動報告に詳しく説明していますので、興味のある方はご覧ください。

本研究会は、「統計的手法を中核とした品質管理手法の開発・普及」を目指しています。3か月に一度、金曜日の夕方にメンバーが興味あるテーマを持ち寄り、それについて議論を行い、品質管理手法として確立できるかどうかを検討しています。本研究会の特徴の一つは、統計的品質管

理技術の数理的側面に関する研究を重視していることです。発足当初は、グラフィカルモデリングを大きなテーマとしていました。この研究テーマは、数多くの議論を経て、統計的因果推論の理論的研究として変遷を遂げました。また、タグチメソッドに関する理論研究、特に、MTシステムの数理的性質の解明と改良にも取り組んでいます。一方、若手研究者の参加により、これまでにはなかった視点で話題提供や議論が行われることもあり、本研究会も徐々に再活性化しつつあります。

このように、テクノメトリックス研究会では、統計的品質管理技術を数理的な観点から検討するとともに、改良手法の提案など、数多くの議論を行ってきました。これらの研究成果については、シンポジウム、研究発表会、品質誌への論文投稿などをとおして広く公表してきたところです。今後も、わが国の品質管理活動の一助となるように努力していきたいと考えています。

第387回 事業所見学会 ルポ

我が国宇宙開発の 最先端技術に 触れに行く

平成28年4月21日(木)、第387回事業所見学会が茨城県つくば市の宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センターにて24名参加のもと開催された。JAXAの略称でお馴染みだが、意外と実態は知られていない機構のため、関心の高い見学会となった。

1972年に日本の宇宙開発の中核として開所したセンターの見学は、展示館内の歴代の宇宙開発機器の模型、モックアップや実物などを間近に見ることから始まったが、その大きさや精密さなど認識を新たにすると共に、その裏側にある技術開発の歴史にも触れることが出来た。続いて、宇宙飛行士養成エリア、国際宇宙ステーションの「きぼう」運用管制室を見学したが、宇宙服が14層で作られていることや、宇宙飛行士の訓練装置などを現物や画像で見せていただいた。また、

「きぼう」から送られてくる最新の地球の画像も見ることが出来た。

最後に、JAXA信頼性統括の武内信雄様から「JAXA S&MA (Safety and Mission Assurance) の動向」と題して講演をいただいた。まずは宇宙機と自動車の比較で規模の大きさ、運用環境の過酷さ、などの特徴を概説いただいた後、ハードウェアのみならずソフトウェアも含む信頼性、品質の確保の方策を図示された。そこでは、技術開発にあたっての英知の所在と展開の組み合わせ、開発を取り巻く環境変化に対する人材育成の重要性などを解説いただいた。

質疑応答では、ロケットや衛星、搭載される各種装置の信頼性確保と品質保証に関する多くの質問で予定を超過したが、丁寧に回答いただけた。

全体として我が国宇宙開発の全貌を知ることが出来たと共に、その裏側にある技術研究者のすごさ、たくましさを実感出来た見学会となり、ご対応いただいたJAXAの関係者の皆様に感謝申し上げます。

瀧沢 幸男 (瀧沢クオリティ研究所)

事務局からのお知らせ

「QMS有効活用及び審査研究部会 WG5 第4期継続 研究報告書
- 供給者との互惠関係向上のための外部委託管理の指針研究 -」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申込先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊 (A4判70頁) 会員1,019円、非会員1,482円、QMS部会員は(税別) 1冊目に限り648円。
送料：(冊子小包) 1冊215円、(DM便) 1冊170円、他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振込先：一般社団法人 日本品質管理学会 フリガナ：シャ)ニホンヒンシツカンリ
ガツカイ
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

行事案内

●第98回クオリティトーク (本部)

テーマ：英日統計科学源流談義

ゲスト：椿 広計氏

(JSQC会長・統計センター)

日時：2016年6月23日(木)18:30~20:50

会場：日科技連東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

申込先：本部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280623>

●第389回事業所見学会 (本部)

テーマ：物流を通じた価値創造の拠点

日時：2016年6月30日(木)14:30~17:00

見学先：ヤマトホールディングス

羽田クロノゲート

定員：35名

申込締切：2016年6月23日(木)

申込先：本部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280630>

●JSQC規格「プロセス保証の指針」 講習会 (本部)

テーマ：品質はプロセスで作る

日時：2016年7月1日(金)13:00~17:00

会場：日科技連東高円寺ビル2階講堂

定員：100名

申込締切：2016年6月24日(金)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280701>

●第128回講演会 (関西)

テーマ：お客様によるこびと感動を与えるモノづくりとTQM

日時：2016年7月4日(月)13:15~16:55

会場：大阪大学中之島センター10階

佐治敬三メモリアルホール

プログラム：

講演①：『TQM本格導入による経営体質の強化と現場力の向上』

田淵 淳氏 (GSユアサ)

講演②：『島津製作所のモノづくり』

榎本晋虎氏 (島津製作所)

申込先：関西支部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280704>

●第388回事業所見学会（中部）

日時：2016年7月14日(木)13:00~16:30

見学先：ジェイテクト 花園工場

定員：35名（先着順）

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込締切：2016年6月17日(金)

申込先：中部支部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280714>

●第158回シンポジウム（中部）

テーマ：「最良だから最強」な組織づくり
～社員が共通の理念を持ち、活き活きと活動し、成果を出せる組織にするには～

日時：2016年7月26日(火)13:00~17:00

会場：刈谷市総合文化センター

「アイリス」1階小ホール

定員：180名

プログラム：

基調講演：望月広愛氏

(MATコンサルティング)

事例講演：西 泰宏氏（西精工）

申込締切：2016年7月12日(火)

申込先：中部支部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280726>

●第111回研究発表会（中部）

日時：2016年8月31日(水)

会場：名古屋工業大学

申込締切：2016年8月24日(水)

申込先：中部支部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280831>

●第112回研究発表会（関西）発表募集

日時：2016年9月2日(金)

会場：大阪大学中之島センター

申込締切：

発表申込締切：7月4日(月)

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

- A. JSQC規格 Std 89-001 「公的統計調査のプロセス—指針と要求事項」
- B. JSQC規格 Std 33-001 「方針管理の指針」

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申込先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代：A. 1冊（A4判27頁）会員960円、非会員1,200円（税別） B. 1冊（A4判47頁）会員1,704円、非会員2,130円
- 送料：（冊子小包・1冊）A 180円、B 215円、（DM便・1冊）170円、他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。

予稿原稿締切：8月22日(月)必着

申込先：関西支部事務局

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280902>

●第160回シンポジウム（本部）

テーマ：開発・設計に必要な統計的品質管理

日時：2016年9月10日(土)9:55~17:00

会場：日科技連東高円寺ビル2階講堂

定員：120名

プログラム：

趣旨説明：永田 靖氏

(産学連携研究会・早稲田大学)

「開発初期における設計品質のつくり込み—技術的知見の集約と活用を通じた未然防止の実践—」

江口 真氏（トヨタ自動車）

「スパースモデリングの方法—高次元回帰分析法—」

荒木孝治氏（関西大学）

「スパースモデリングの方法—社内教育と適用成果—」

吉野 睦氏（デンソー）

「工程能力について再考する」

仁科 健氏（名古屋工業大学）

「統計的ものの見方・考え方を定着させるしくみ・体制」

小杉敬彦氏（トヨタ自動車）

パネルディスカッション

リーダー：永田 靖氏

申込締切：2016年9月2日(金)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280910>

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

会員データベース更新のお願い【重要】

庶務委員長 山田 秀

当学会では、2010年度から会員名簿の発行を取りやめ、オンラインで会員データベースを提供しています。このデータベースは、会員からの変更届をもとに随時更新しておりますが、今年は3年に一度の名簿改訂の年に当たるため、全会員を対象としてデータベースのご

確認と修正をいただくよう準備しております。皆様ご協力くださいますよう、お願いいたします。

なお、詳細につきましては、7月発行の「品質」誌に同封でお知らせいたします。